No. 443

GMARCH・関関同立 英語 合格の作戦書【文法・会話・長文で取り切る】

GMARCH・関関同立は「標準問題を落とさない人」が受かる。敵の正体、点の取り方、大学別の特徴、月別にやることを1枚の作戦図に。

Web版はこちら

ここだけ3行

1. 文法・語法・会話・語彙は満点近く。ここの1問が合否を分ける
2. 知識問題は1問30秒で即答し、浮いた時間を長文に回す
3. 受ける学部・日程の過去問で時間と形式を測り、作戦を決める

敵の正体：難問より「取れたはずの1問」

この層の大学の英語は、難問で振り落とすより標準問題の比重が高い。学習院は「難問・奇問は出さない」、立教は「教科書の範囲が原則」と大学自身が説明し、関学は「基本的な英語能力」を測ると言う。同志社の2026年度入試統計（文系）では、英語（200点）の合格者平均は学科・日程別に約156～174点（約78～87%）、受験者平均との差は19～36点。つまり**みんなが取る問題を自分も全部取る**のが大前提。差がつくのは、文法・語法・会話・語彙の取りこぼしと、長文に残せる時間の量。難しめの設問は、その上で拾えた分だけ得をする。

◆ 合格点の設計図：分野別の目標と時間

目標は編集部の目安。志望学部の過去問を解いて自分の数字に直す。

分野	目標（目安）	1問の時間	勝ち方
文法・語法4択	9割以上	20～30秒	選択肢で「何の問題か」を先に判定
正誤・誤り指摘	8割以上	40～60秒	数→語法→時制の順に点検
整序・並べ替え	8割以上	1分前後	動詞→塊→残りの順に組む
会話文	9割	30～40秒	直前と直後の発言で挟んで決める
語彙・同義語	8割	20秒	言い換えの組で覚えておく
長文（内容一致・空所）	7割以上	1題20～25分	設問を先に見て段落ごとに照合
和訳・英作文	部分点を積む	1問5～10分	構文を確定、書ける構文で書く

◆ 取りこぼしゼロの鉄則8

どの大学でも効く「解き方の型」。迷う時間をなくす。

☐ 1 形で選び、訳は最後

文法4択は選択肢を見て、時制・関係詞・語法など何の問題かを先に決める。空所の前後の品詞と語法で絞れば、全文を訳さずに根拠を持って選べる。→シート『4択文法の出題ポイント60』

☐ 2 正誤は疑う順番を固定

①主語と動詞の一致・名詞の数 ②動詞の語法（自動詞か他動詞か・後ろの形）③時制 ④品詞・関係詞。下線部ごとに同じ順で当てる。→シート『正誤で狙われるミス50』

> We discussed the plan.
> discuss は他動詞。about を入れたら誤り

☐ 3 整序は動詞から組む

述語動詞を1つ決めて主語を探し、前置詞＋名詞・to 不定詞などの塊を作ってから並べる。「2番目と6番目」を答える形式でも、全部並べてから数える。→シート『並べかえのポイント30』

☐ 4 会話は前後で挟む

入れた選択肢が直前の発言への応答になり、直後の発言にもつながるかで決める。字面どおりの意味の選択肢はダミーのことが多い。→シート『会話文の解き方20』

☐ 5 語彙は言い換えの組で

下線部の同義語選択は立命館・同志社などで出る。abandon≒give up、vital≒essential のように、1語1訳でなく言い換えの組で覚え、品詞もそろえる。→シート『言い換え100』

☐ 6 空所は論理を先に決める

長文の空所は、前後が逆接・因果・例示・追加のどれかを決めてから選択肢を見る。However の後は前と対立・対比する内容、For example の後は前の具体例。

☐ 7 内容一致は言い過ぎを疑う

all / always / only / never を含む選択肢は本文の根拠を確認。「本文と反対」と「本文に書いてない」は別物（立命館は「判断できない」の選択肢がある）。

☐ 8 粘る上限を決める

知識問題は1分、長文の1問は2分など上限を決め、超えたら仮マークして先へ。大問を1つ丸ごと解き残すのが最悪の失点。→シート『時間配分と解く順番』

◆ 大学別の特徴：早見表

確かな範囲だけ。時間・配点は学部・年度で変わるので最新の要項で確認。

大学	英語の形（確かな範囲）	作戦の要
明治	学部別は学部ごとに別問題（60〜80分）。全学部統一は60分・100点（2026年度）	受ける学部の時間で過去問。多義語・語法・会話を即答
青山学院	全学部日程は全問マーク。読解2＋文法（正誤・空所）＋対話文	正誤と会話イディオムで落とさない勝負
立教	英語は外部試験か共テを換算。独自の英語試験は2月11日の文学部のみ	出願までに英検・共テの英語を上げる
中央	学部ごとに別試験。記述は法・経済・商。大学が「出題の意図」を公表	出題の意図を読み、失点の原因を言葉にする
法政	原則90分。T日程とA方式で問題が違う。文系の多くのT日程は英語150点	T日程は英語が配点の6割（法の例）。英語で決める
学習院	90分。法・経済・文・理は同じ構成の大問7つ（長文・語法・正誤・会話・英作文）	基本の精度。前置詞の連語とつづりまで
関西大	90分・大問3つ・全問マーク（2026年度）。会話＋パートの並べ替え＋読解	並べ替えは代名詞とつなぎ言葉で「次」を決める
関西学院	第Ⅰ時限は全日程90分。読解3＋文法語彙＋並べ替え＋会話（全問マーク）	文法10問・並べ替え・会話を満点近くに
同志社	100分・200点。長文2＋会話1。英文和訳と和文英訳の記述	記述の練習が必須。法・経済は英語に基準点（2026年度）
立命館	80分・大問5つ・全問マーク。大問ごとの配点を大学が公表	文法16点・語彙20点を速く解いて長文へ

◆ ロードマップ全体図（本番＝2月）

12か月前＝高2の2月ごろ。月末のチェックに YES と言えたら次へ進む。

時期	ゴール	月末チェック
土台期 12→6か月（2〜7月）	単語・熟語・文法を「即答」できる	文法問題を1問20秒、理由つきで答えられる
実戦期 6→3か月（8〜10月）	700語前後の長文を時間内に読む	この層の長文1題を25分以内・7割
過去問期 3→1か月（11〜12月）	受ける日程の形式で合格ラインへ	第一志望の過去問を時間内に解き切れる
直前期 1→0か月（1月〜本番）	取れる問題を確実に取る	×ノートの問題を全部正解できる

◆ 土台期（12→6か月）：知識を「即答」に 5

☐ **1 単語は毎日100語回す**

標準〜やや難の単語帳1冊を、1日100語ずつ「隠して思い出す」で回し、翌朝その100語を再テスト。動詞は後ろの形、名詞・形容詞は派生語まで。→シート『GMARCH頻出単語200』

☐ **2 文法問題集1冊を3周**

単元ごとに解き、×と「理由が言えない○」に印。2周目・3周目は印の問題だけ。1冊を完璧にするほうが、3冊を1周より効く。→シート『英文法全単元まとめ』

☐ **3 熟語・語法を1日20個**

prevent A from doing のような型は、例文ごと声に出して覚える。A・B の位置と前置詞まで正確に。→シート『頻出イディオム300』『語法が問われる動詞100』

☐ **4 1日5文の精読**

主語・動詞・修飾のかかり方にカッコをつけて訳す。ここを飛ばして長文を量産すると「なんとなく読み」で伸びが止まる。→シート『スラッシュの区切り方20』

☐ **5 会話表現を1日10個**

会話文は多くの大学で大問になる。表現を「場面＋返し方」のセットで覚え、日本語を見て英語が言えるかで確かめる。→シート『基礎〜GMARCHの会話表現100』

◆ 実戦期（6→3か月）：長文を時間内に 5

☐ **1 長文を毎日1題・時間を計る**

600〜900語の長文を1日1題、1題20〜25分で。解いた後は、根拠に線→分からなかった文の構造→語彙の順に復習する。→シート『長文の復習法』

☐ **2 復習した英文を音読**

意味と構造が分かった英文を、音声をまねて1日15分。ゴールは黙読で返り読みしない速さ。→シート『音読のやり方』

☐ **3 設問タイプ別の手順を固める**

内容一致・空所補充・下線部・正誤・整序を、毎回同じ手順で解く。手順が決まると迷う時間が消える。→シート『内容一致の解法』『正誤問題の解き方30』

☐ **4 秋に第一志望を1年分**

遅くとも10月までに、受ける日程の過去問を1年分、本番の時間で解く。点数より「どの大問で何点落としたか」を記録し、残り期間の配分を決める。

☐ **5 知識は×だけを回す**

単語・文法・熟語は印の付いた×だけを週1回まとめて再テスト。模試で落とした知識問題は、その日のうちに単元のシートで理由を確認。

◆ 過去問期（3→1か月）：1回分を3回使う 5

解く→直す→解き直すで1セット。解いた時間と同じだけ復習に使う。

① **本番と同じ時間で解く**
受ける学部・日程の過去問を、本番の時間（60・80・90・100分など）で。解く順番と大問ごとの目安時間を紙に書いてから始める。

② **×の原因を4つに分ける**
知識（単語・文法）／読み違い／時間切れ／ケアレス。知識の×は単元のシートに戻り、読み違いは根拠の文と選択肢の言い換えを確認。

③ **出題の意図・講評を読む**
中央・青学・立教・学習院・関大・関学・同志社・立命館などは、出題の意図・講評・出題方針を公表している。失点がどの力の不足かを言葉にする。

④ **配分を直す**
時間切れが出たら、知識問題の上限を短くするか、解く順番を変える。2回目以降の過去問で配分を固める。

⑤ **3日後に解き直す**
×だった問題を時間を短めにして解き直す。全部正解できたら完了。×と教訓は1冊の×ノートに1行ずつ。→シート『過去問の使い方』

◆ 併願の過去問の回し方

年数は目安。形式が変わった年より前は、練習用と割り切る。

優先	対象	量(目安)	やり方
1	第一志望の受ける学部・日程	形式が同じ範囲で5年分以上	本番の時間で解き、同じ年を時期をあけて解き直す
2	同じ方式の他の日程	余力で	立命館の全学統一方式のように形式が共通なら全日程が教材。関学は全日程90分で配分練習に使える
3	併願校の受ける日程	2〜3年分	最低1年分は本番の時間で解き、時間配分を決めておく
4	形式が似た他大学	弱点の形式だけ	正誤・並べ替え・会話など、落とす形式の練習用に

◆ 併願の組み方:形式の相性と日程 4

☐ **1 マークが得意なら**

全問マークの方式(青学の全学部日程・立命館・関大など)で知識問題を稼ぐ。記述の練習時間を長文と知識に回せる。

☐ **2 記述も書けるなら**

同志社(英文和訳・和文英訳)や、中央の法・経済・商など記述のある学部も強い選択肢。和訳は構文を確定してから自然な日本語に。

☐ **3 英検などのスコアがあるなら**

立教(外部試験か共テを換算)、法政の英語外部試験利用入試、関大の2教科型(CEFR B1以上で出願、スコアの段階で加点)などを要項で確認。当日の英語に左右されない判定を1つ持てる。

☐ **4 日程表を自分で作る**

2026年度は明治の全学部統一と法政のT日程がともに2月5日だった。関西は2月上旬に主要日程が集中する。要項で試験日を並べ、連戦の順に過去問を回す。

◆ 直前期(1→0か月)と当日 5

☐ **1 新しい教材は開かない**

×ノート・過去問の解き直し・単語帳の印の語だけを回す。共テを受ける人は共テまでは共テ形式、終わったら個別試験の形式に切り替える。→シート『直前30日の勉強法』

☐ **2 試験の時刻に頭を合わせる**

要項の時間割を見て、毎朝その時刻に過去問か長文1題を解く。朝型に戻すのは遅くとも1〜2週間前から。

☐ **3 前日は「言えるか」テスト**

会話表現・語法・×ノートを、隠して言えるかで確かめる。眺めるだけの読み返しはしない。受ける日程の時間配分メモを最後に見る。

☐ **4 当日は知識問題で波に乗る**

最初の1分で大問を確認し、決めた順に解く。分からない問題は印をつけて飛ばし、最後の3〜5分で飛ばした問題とマークのずれを確認。

☐ **5 連戦は1日ずつ切り替える**

終わった試験の答え合わせはしない。次の大学の形式と配分メモだけを見て寝る。→シート『入試当日チェック』

◆ 作戦のやりがちな失敗 6

☐ ~~× 長文ばかり解き、文法は「だいたい」で済ます~~
○ 文法・語法・会話を満点近くにしてから長文を増やす
標準問題の1問で差がつく試験だから

☐ ~~× 他学部の過去問だけで本番対策を終える~~
○ 受ける学部・日程の過去問を本番の時間で解く
同じ大学でも時間・形式・配点が学部で違う

☐ ~~× 過去問を「最後のお楽しみ」に取っておく~~
○ 秋に第一志望を1年分解いて差を知る
早く形式を知るほど残り期間の配分が決まる

☐ ~~× 解きっぱなしで点数だけ記録する~~
○ ×の原因を分けて単元に戻り、3日後に解き直す
点が伸びるのは解いた後の復習の時間

☐ ~~× 60分の試験を80分の感覚で解く~~
○ 明治の全学部統一などは本番の60分で練習する
時間が違えば配分も解く順番も変わる

☐ ~~× 英検のスコアがあるのに方式を調べない~~
○ 外部試験を使える方式を要項で確認して併願に入れる
当日の英語に左右されない判定が持てる

◆ 30秒チェック:これを落とすと痛い

1 My brother suggested ＿＿ to the new museum.
a going　b us to go　c go　d to go

2 I'll text you as soon as I ＿＿ home.
a had got　b got　c get　d will get

3 A: Do you mind if I open the window? B: ＿＿ Go ahead.
a Not at all.　b No, you don't.　c Yes, I do.　d Sure, I mind.

4 This is the house ＿＿ my grandfather built.
a which　b what　c where　d in which

5 However の直後に来やすいのは ＿＿ 。
a 前の具体例　b 前の言い換え　c 前の原因
d 前と対立・対比する内容

6 本文が触れていない理由を足した選択肢は、立命館型の3択では ＿＿ 。
a 一致　b 判断できない　c 不一致　d 主旨

◆ 解答

1 going suggest は doing か that 節。suggest O to do は不可

2 get 時を表す副詞節は未来でも現在形

3 Not at all. mind は「嫌か」。許可するなら否定で答える

4 which built の目的語が欠けている→関係代名詞

5 前と対立・対比する内容 逆接・対比。空所補充・並べ替えの決め手

6 判断できない 「書いてない」と「反対」は別物

参考資料 同志社大学｜2026年度 一般選抜 受験者・合格者の科目別平均点(文系)(PDF)／学習院大学｜2026年度一般選抜 出題ポイント 英語(PDF)／立教大学｜一般入試・共通テスト利用入試についてのQ&A(2027年1・2月実施入試)／関西学院大学｜英語 出題意図・解答(解答例)(2026年2月1日)／明治大学｜2026年度 一般選抜要項(PDF)／法政大学｜2026年度 一般選抜 入学試験要項(PDF)／中央大学｜一般選抜 試験問題、解答又は解答例、出題の意図の公表(2026年度)／青山学院大学｜一般選抜(全学部日程)／立命館大学｜2026年度一般選抜入学試験の出題方針と学習のポイント(入試ガイド2027)／関西大学 Kan-Dai web｜入試過去問題・解答(2026年度 英語・全体講評)／同志社大学｜2026年度入学試験要項(一般選抜入学試験ほか)